

Ⅱ まもるの課題と施策の方向性

- 交通ルールを「まもる」ことに対して、一人ひとりの意識や、交通安全教育の実状などの視点で様々な課題があります。
- これらの課題と、それに対応するための方向性を整理します。なお「考え方」には早期に取組み効果が出るものも、効果発現に時間がかかるものもありますが、それぞれ実施時期や期間については、第4回協議会で整理・提案します。

「まもる」の課題

自転車に対する意識

- ①自転車の交通ルールを知らない
- ②交通ルールがわからない場合は自己判断で対応
- ③自転車に乗る本人は危険性が低いと思っている
- ④交通ルールを知っていても守らない
- ⑤守れない状況で仕方なく
- ⑥自転車に乗らない人は無関係と思っている

学ぶ機会の現状

- ①交通ルールを学ぶ機会が少ない
- ②学ぶ機会はスポット的な交通安全教室が中心
- ③欲しい情報がどこで得られるかわからない
- ④交通ルールを学ぶ必要性が実感できない
- ⑤自転車の危険性を知る機会が少ない

取組みの現状

- ①各主体がそれぞれに取組みを展開
- ②生涯を通じた交通安全教育の取組の拡がりがない
- ③参加者が固定化・限定されている
- ④学校から自転車通学者への交通安全教育が十分でない
- ⑤事業者から従業員への交通安全教育が十分でない

事業の限界

- ①ルール遵守の教育、指導の限界(人的、費用的)
- ②道路での自転車通行環境整備の限界
- ③駐輪施設整備の限界

施策の方向性と具体化に向けた考え方【知らなかった】をなくす!!



Ⅱ 自転車を「いかす」ための施策の方向性

- 自転車を「いかす」ために、現状を変えていかないといけないことが想定されます。これらを改善するための施策の方向性や、考え方は以下の通りです。

「いかす」ために求められる対応

情報不足への対応

- ①駐輪場がどこにあるか分かりにくい
- ②通行しやすい道がどこなのか分かりにくい
- ③自転車の選び方、安全な乗り方が分かりにくい
- ④イベント等の情報が分かりにくい
- ⑤放置自転車等の問題の相談先が分かりにくい

…など、情報が不足していることによる使いにくさへの対応

促進に見合う基盤や制度の確立

- ①自転車の多様化に施設が対応しきれていない
※自転車の大型化に加え、ペロタクシー等特殊な自転車への対応含む
- ②車道の左側が走りにくい
- ③公共空間の利用には様々な条件がある
- ④駐輪場の計画的整備は困難
※用地の余裕なし、高度利用済み等
- ⑤新たな自転車ニーズを阻む規則や制約がある
- ⑥サイクルスポーツ等に適した基盤がない

…など、基盤や規則、制度の利用の制約条件への対応

利用増加による懸念への対応

- ①駐輪場の供給が新たな需要を生む状況
- ②自転車交通量の増加による混雑の助長の懸念
- ③交通ルールを守らない自転車利用の増加
- ④バスから自転車への転換による公共交通衰退の懸念

…など、自転車の利用促進から生じる懸念への対応

施策の方向性と具体化に向けた考え方

【まちに適した自転車利用ができる環境づくりを進めます】

